

## 琵琶湖の水上飛行機

昨年の11月下旬、琵琶湖の上空に水上飛行機が飛来した。約50年ぶりの光景に、年配の市民からは「懐かしい」「子どものころ乗りたかったな」との声が聞かれた。

琵琶湖では1961年から11年間、水上飛行機の遊覧飛行が行われていた。何度か復活の動きはあったが、実現していない。今回は、ウィズコロナに対応した新しい観光事業の一つとして、大津市が打ち出した。観光庁の「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業に採択され、第一歩となる実証飛行が実現した。

市によると、水上飛行機は乗員が少人数で密を避けられるうえ、それほど広くない機内は飛行の合間に十分消毒できる、という。

当日は、関西国際空港を出発した水上飛行機（10人乗り）が大津市沖の琵琶湖に着水した。モニター客や市の関係者を6人ずつ乗せて、琵琶湖や京都市の上空を3回遊覧した。

水上飛行機を所有する航空会社は▽関西経済圏▽日本一の湖▽人気観光都市・京都一と好条件がそろっているのので、採算は取れるのでは、と見通す。搭乗した人たちにも「湖面がきれい」「間近に京都御所や清水寺が見えた」「揺れが少なく快適」と好評だった。

大津市は、民間事業者による商業運航を目指して関係機関と協議を進める。滋賀県内では、他の自治体やびわこビジターズビューローも水上飛行機による観光誘客を模索しており、幅広い連携も視野に入れる。運航プランづくりは航空会社や旅行会社、地元の宿泊施設などを想定している。

専用栈橋の常設、湖面を行き交う船舶との調整といった課題もあるが、琵琶湖を最大限に生かす水上飛行機への期待は大きい。試乗した佐藤健司市長も「遊覧飛行だけでなく、コロナ後の新しい移動手段として（ビジネスにも）活用できれば」と手応えを感じている。

琵琶湖と京都を結ぶ琵琶湖疏水では、すでに観光遊覧船が運航し、人気を集める。復活した水上飛行機と遊覧船を乗り継いで、大阪から琵琶湖を経て、京都へ。近い将来、魅力的な観光ルートが誕生するかもしれない。

京都新聞社 滋賀本社代表 藤田治久



琵琶湖に飛来した水上飛行機。ウィズコロナの観光事業として、遊覧飛行復活への期待は大きい（昨年11月24日）